

26. 曾根田遺跡

そね だいせき

所在地：三方上中郡若狭町上黒田

調査原因：舞鶴若狭自動車道建設

調査期間：平成 21 年 7 月 1 日～8 月 31 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：1,190 m²

時代：縄文時代・弥生時代・古墳時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 曾根田遺跡は、鳥羽川の支流である黒田川によって開析された谷の開口部に立地します。曾根田遺跡の調査は、舞鶴若狭自動車道建設に伴って平成 19 年度より着手しています。今回発掘調査を実施した箇所は、昨年度の調査区に挟まれた町道部分にあたります。町道でしたので、東西の路肩にはコンクリートの擁壁が構築されており、かつ路盤下には上下水道が埋設されていました。このため、調査区内は擁壁や上下水道の設置に伴う工事により、至るところにおいて削平や攪乱を受けていました。それでも、量的には多いとは言えませんが遺構が遺存していました。

遺構 検出した遺構は、自然流路 1 条、埋桶遺構 2 基、ピット約 70 基でした。

自然流路 (SD92) は、昨年調査した西隣の調査区において検出した不整形な土坑に繋がるものでした。周囲の地形を考慮すると、自然流路は西から東にむかって蛇行しながら流れていたものと推定できます。

埋桶遺構は直径 1.4m ほどの円形の土坑内に、桶を埋設した遺構です。上部がすでに大きく削平されているため、底部のみの検出となりました。再利用のためか桶の板材は抜かれており、SK61 では竹製のタガのみが、SK62 ではタガと底板のみが遺存していました。SK62 において桶の底板が存在することから、当初より底板のある桶をそのまま埋設した遺構と想定できます。遺物の出土が僅少であるため、遺構の時期は明らかではありません。

ピットは、直径 10～30 cm、深さ 10～20 cm をはかる遺構です。調査区の北半を中心に検出しました。隣接する昨年度の調査区では掘立柱建物を多数検出しており、今回検出したピットも、建物を構成した柱穴である可能性が高いと言えます。

遺物 遺物では、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器などの土器類が主として出土しています。遺物の多くは、自然流路 (SD92) からの出土です。

まとめ 今回の調査区は、曾根田遺跡の南端にあたるうえ、削平や攪乱の影響で遺存していた遺構は多くはありませんでした。それでも、昨年度の調査で得られた資料と関連する遺構を検出することができ、曾根田遺跡の内容を明らかにするうえで貴重な資料が得られました。

(清水孝之)



①調査区全景



②自然流路 (SD92)



③埋桶遺構 SK61



④埋桶遺構 SK62



⑤ピット群



⑥発掘調査作業風景

曾根田遺跡の全景と検出遺構